

アンテベラム期合衆国における信教の自由
—環大西洋福音主義ネットワークと反カトリシズムを背景として

<報告概要>

本発表では、アンテベラム期の合衆国においてプロテスタントの間で交わされた信教の自由についての議論を検討し、その背景に存在した環大西洋福音主義ネットワークと反カトリシズムに光を当てる。

「はじめに」部分では、今なぜアンテベラム期の信教の自由理解の検討が必要とされているのかを簡単な研究動向とともに論じ、次に第1部として、1849年に形成された反カトリック的プロテスタントの自発結社、内外キリスト教連合(American and Foreign Christian Union、以下 AFCU)を紹介する。AFCUのルーツの一つはヨーロッパでの福音主義プロテスタンティズム伝道を志したロバート・ベアードにあり、ベアードは国内外のプロテスタントと交友関係を結んでカトリックの改宗に取り組むとともに、ヨーロッパのプロテスタントをより福音主義的にすべく活動した。アメリカ人プロテスタントのヨーロッパ伝道への関心は、同時代のカトリック国におけるプロテスタントの活動規制への批判、そしてカトリック教会が一般信徒に俗語訳聖書を禁じることで彼らを真理から遠ざけているという、プロテスタント的なカトリシズム批判と結びつき、AFCUはその綱領に信教の自由と福音主義のプロテスタンティズムを国内外で広めるという二つを目的に掲げ誕生した。

発表第2部ではAFCUが主導した信教の自由を求める請願運動(1853-1854)を紹介する。この運動は外国においても国内同様アメリカ人の自由な宗教活動を可能とするため、合衆国政府に対して組織的請願を行い、政府が積極的な行動をとることを求めたものだった。運動は、ヨーロッパのカトリック国におけるプロテスタントの活動保護を求めたという性質が強く、国内のカトリックは反発したが、ユダヤ教徒が組織的な参与を果たしたことによってプロテスタントの運動に留まらない幅の広さを備えることになった。最後にこの運動が信教の自由理解の変遷過程において負った歴史的意義を考察し、発表の結びとする。